

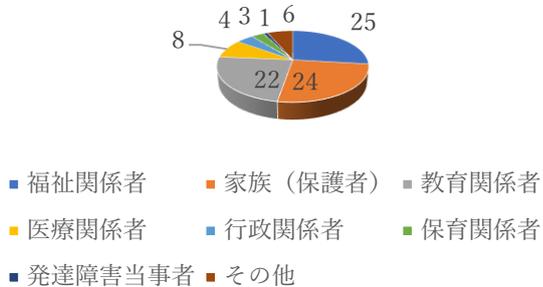
令和5年度三者共催講演会 アンケート結果

【対面開催】令和5年12月3日（日）和歌山県立情報交流センターBig・U研修室1【参加者34名】

【配信期間】令和5年12月18日（月）～令和6年1月5日（金）YouTubeによるオンデマンド

【申し込み総数243名 再生回数290回】

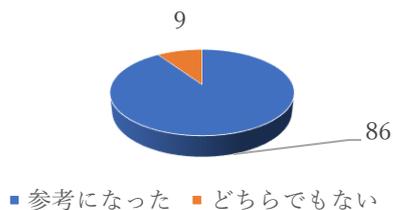
所属先について



参加した理由



講演会は



ご覧頂いた方の感想（対面・オンデマンド両方）

- ・私は小学校支援員として多様な児童と関わっています。次女は20歳で情緒障害の部類です。何とか義務教育を終えるまでに自立出来る子どもを育てると言う目標に向かって日々悩みながら支援しています。その中で、今の児童が社会人になった時の先の問題点も様々な角度から知識として身に付けなければならないと痛感しています。どうしても今を優先的に見てしまいがちですが、こう言う形で講演会を視聴出来て、更に新しいことを、身に付けることができ、有難く思います。（他 1名）
- ・発達障害のある人のことを人権的な視点から考えるというのは、あまりない経験でとても参考になりました。 オンライン視聴もしていただけたのでありがたかったです。（他 2名）

- ・家族でもあり、支援者（相談員）です。”分け隔てられることなく一緒に地域で暮らしていく”ことの難しさを日々痛感し、自分の立場として共生社会の実現に向けて何ができるのかを考えさせられました。How toを求められることが多くありますが、人それぞれ・十人十色の部分も目を向けてもらえる社会にならなければ、安心して家族を託せないと思います。そしてHow toだけが知れ渡ることには危機感を感じています。障害特性を知ってもらうことはもちろん大事ですが、障害者というフィルターを通さずにその人自身を知ってくれる人が増えたらいいなと切に願います。
- ・過去、障害のある人が受けた人権を無視した事象があったことで、現在では多くの人々に問題提起することになり、様々な点で大きく改善してきているように思います。制度が整備されつつある中で、最後は人間一人一人の気持ち、心が備わって障害のある人の人権が保たれていくのだと思います。ただ、障害がない人でも人権侵害を受けている状況があるようにも思います。人権は障害の有無に関係なく守られていく必要があるものだと改めて思いました。
- ・大変丁寧にお話くださってわかりやすかったです。最後の犯罪に関するところなどは当番弁護士や警察に療育手帳を見せるなど、支援者としても知らないことが多くて大変参考になりました。でも少し、時間がなかったのが残念でした。セルフアドボカシーの話はとても興味深かったです。(他 1名)
- ・辻川先生のお話を聞く機会が今まであまりなかったので、今回の講演会はとてもありがたかった。(他 1名)
- ・障害者の権利についてどのような歴史があったのか、どのように今後考えていくべきかを具体的な事例も含めてお話いただき、とても参考になりました。社会モデルに基づく障害観という考え方は、合理的配慮を考える上でとても分かりやすかったです。今、こども基本法が施行され、こどもの権利条約を前提としたこども観のもと、こどもの意見表明やこどもの主体性を尊重することが注目を集めています。その中でこどもたちとの対話や、こどもたちの意思を尊重するための関わり方を再確認する必要があると考えています。障害のある人たちへも同じように本人の意思を尊重しながら社会的な障害を取り除き、共生の街づくりにつながるように取り組んでいきたいと思いました。ありがとうございました。(他 1名)
- ・法律や事例などについて、具体的にお話していただけたのでわかりやすい内容でした。障害がある人が陥りやすい困りごとなど、想像することができたので、知ることは本当に大切だと感じました。警察の方に実感してもらうには…の例が、『本当にそうだなあ』と思いました。自分が経験したことは(肌で感じることは)、話を聞くだけではなく、自分自身で考えるきっかけにもなると思います。私自身もこのようなきっかけ作りをしていきたいと思います。(他 4名)
- ・障害のある人もない人も共に生きる社会が当たり前となるように、ものの見方捉え方を広げたり緩めていったりすることができないといけないと思った。様々な事例を知るということもとても大事だし、これを周りの人に伝えていくことで、少しずつでも理解の輪が広まってほしい。「困りごとがあったら本人ではなく、社会が努力して解決する」この一言がとても心に響いた。人それぞれがもっている特性を理解し、本人と一緒にどうすればできるかを考えていくことを始めたい。
- ・障がいがある人の差別を受けた歴史や、グループホームで支援してもらえる内容など知ることができ、有意義な講演内容だった。

- ・ 社会の矛盾や人権を守るためにできること等たくさんのお話をお聴きし、自分たちにできることは何だろうと思うこともありました。合理的配慮や障がいの特性などについて地域の方々に知ってもらうことはとても大切だと思います。障がいについては子どもの頃から何らかの形でみんなが知ることも必要なかなと思いました。誰もが普通であたり前の生活ができる世の中になってほしいです。今回のように学べることが次への一歩に繋がります。貴重なお話を聴くことができ、とても良かったです。
- ・ 合理的配慮についてわかりやすく説明を聞くことができました。教育関係者なので社会モデルと医療モデルの統合で考える必要性も強く感じました。社会で生きる力を育むための指導と支援を考えないと、 と思いました。(他 3名)
- ・ 講演会に参加できることで、新たな気づきに出会えます。発達障害者の学びの環境・仕事・恋愛・結婚について、周囲の支援無くては困難な課題が沢山あります。大きなことは、行政等が頼りですが、小さなことは個人でも可能かと思い、日々実践させて頂いています。今後も学びの姿勢は継続したいと思っていますので、学びの場の提供を宜しく願います。
- ・ 障がいがある人の差別を受けた歴史や、グループホームで支援してもらえる内容など知ることができ、有意義な講演内容だった。
- ・ 人権についてよく考える機会をいただきました。 障害はその人の身体ではなく環境(社会)の側にある 阻もうとする力が障害 本人ではなく社会が努力して解決する これらのお話しが特に印象に残りました。合理的配慮の意味が曖昧だったのが、必要かつ適切な現状の変更や調整を行うことと理解して、支援していただく方とお話しすれば良いとわかりました。(他 2名)
- ・ 先生の熱意が伝わる素晴らしいご講演をありがとうございました。 人権を守る視点は、時に思い上がった善意によって踏みにじられてしまうことがあるように感じています。これまで弱い立場の方々がどれほどの苦しみを背負わされてきたのか、その傷つきを無視されてきたのか、今後厳しく自分にも問いかけ続けていきたいと思います。ありがとうございました。(他 1名)
- ・ 障害を持っている方がいかに誤解を受けているか、受けやすいかについて理解が進んだと思います。貴重なご講義をありがとうございました。当事者の気持ちや意思を尊重することの大切さをあらためて確認させていただきました。
- ・ 前半の優生保護法のもとでの優生手術は本当にひどい話だと思います。人として当たり前に持っている人権を踏みにじるものだと。でもその根底にあるのは、障がい者は健常者とは違うという健常者側の誤った認識であると思います。障がい者は健常者と同等の権利を持つ同じ人間であるという認識をもつような世の中になって欲しいです。
- ・ 発達障害や知的障害のある方の結婚や妊娠について、実際ケースとして支援させていただいたことがありますが、どうしても「こうなった場合どうするのか」とリスクばかり考えがちになっていたと痛感しました。当事者の「どうしたいか」に寄り添いつつ、考えられるリスクは減らせるよう、資源を使ってフォローしていきたいと思います。(他 1名)

- ・日本でも人としてあたり前にある人権がまだまだ保障されておらず、特に結婚、出産、育児についての合理的配慮が不十分であることを考えさせていただきました。人として自己実現、自己選択の出来る社会となるように考えていきたいと思いました。
- ・難しい話だと思いました。時代は変化していますが、まだまだ理解が必要だと思いました。勉強になりました。ありがとうございました。(他 3名)
- ・自分の子供達もこのような問題になった時、サポートする考えだった事だけに、現実の事を知りすぎて勉強になりました。(他1名)
- ・まだまだ知らない事、沢山ありましたが、この様な機会を頂いて知る事が出来て良かったです。障害者ファーストで今後も関わっていきたいです。(他 1名)
- ・社会的障壁の話のもとになる「障害」という言葉の捉え方にはとても参考になり、またあらためて合理的配慮のすすめ方については明日からも実践にいかす事が出来ればと思いました。
- ・基本をていねいに話してくれて分かりやすかったです。幼少期から「当たり前」を育てていくこと、大事だと思います。(他1名)
- ・優生保護法の話は、自分も過去に対応した内容だったので、聞きながら、もし自分が噛んでいたらと考えながら聞きました。合理的配慮の話はわかりやすい説明「阻もうとする力」の内容で、お互いの権利を考えて「過重な負担」が生じる場合は、例外の話が聞けて、～しなければならぬと思込んでいる考えもあったので、少し気持ちが楽になりました。セルフアドボカシー支援等があることも知らなかったのが出来て良かったです。弁護士の先生から話が聞けて貴重な時間でした。有難うございました。(他 5名)
- ・人権全般に言えることだと思いますが、とにかく“知ってもらうこと,, “正しい理解を広げること,, が大事だと認識しています。なお、特に発達障害については、最近理解は広がっているかと思いますが、見た目等分かりにくいことが多く、保護者としては(当事者もそうですが)“人権,, という面で悲しい思いを多々してきたかと思います。理解の輪を広げていくためにも、まず自分自身が何が出来るのかを考え、出来る範囲で活動していきたいと改めて考えさせられました。(他 3名)
- ・共生社会について考える機会となりました。人権や合理的配慮について、障害のある者視点で知って、自分なりに考えたく参加いたしました。やはり、理解が追いつかない自身に気がきました。難しいなと思いました。質問用紙をいただけただので、素朴な質問を伝えられて良かったです。思考の整理にもなりました。ありがとうございました。(他 1名)
- ・①江差町のグループホーム8組16名が結婚、同居を望み(不妊手術を選ばざるを得ないため)これに応じて来た事件に衝撃を受けました。(優生保護法が廃止されているのに)②この法が平成8年まで続いていた(この事実が恐ろしい)が、ここまで続いたことは、私達がいかに知らなかったか思い知らされました。
①の事件を踏まえ、横浜の社会福祉法人かたるべ会(理事長 平野章様)が、彼ら彼女たちを支援している姿(その思想と行動)は素晴らしいです。私達は元気と勇気を頂きました。辻川先生ありがとうございます。

- ・私の考え方が、勉強をされていて人権を守ることは大切、障害のある人を分けへだてなく接する、と頭で理解をしていますが、私が周りの目を気にして言葉や行動の制限をしてしまうところがあります。障害の人権を守るための今を知る事ができた。合理的配慮をニュースで聞いた事があり、理解することができた。
- ・発達障害（自閉症スペクトラム）への理解は進んできたようで、障害福祉の分野の中でもまた地域理解への浸透に関しては課題となることが多くあると感じます。本日拝聴した内容など、理想理念にとどめるのではなく具体的な行動や実践として変えていけるよう研鑽してまいりたいと思います。
- ・「障害のある人もない人も生きやすい社会」、「合理的配慮」、おたがいの社会的障壁を取り除き、または取り除く事を一緒に考えていく事が大切。官公署も企業も経営理念の中心に「人権」を置き、様々な事業や企画、新商品を作成する際などには、誰もが良い方向になる様な考えを持つ必要があるのではないかと思います。全国水平社宣言を起草した西光万吉氏は「人間はあわれむものではなく尊敬すべきものである」という言葉を残しています。かわいそうという考えが上から目線となり、人権を考えるうえで間違ったものになると思います。障害のある人もない人もお互いが尊まわれるべき者であるのだという考えをもてば、合理的配慮の考え方も理解しやすいと思いました。

(以上 アンケート結果のうち同意見を集約、編集して記載)